

主要経済指標等 (2012年)

- 人口 ..... 1,549万人
- GNI 総額 ..... 827.34億ドル
- GNI 一人あたり ..... 5,170ドル
- 経済成長率 ..... 5.1%
- 失業率 ..... 4.5%
- 対外債務残高 ..... 169.31億ドル
- 援助受取総額 (支出純額) ..... 1.49億ドル
- DAC分類 ..... 高中所得国
- 世界銀行分類 ..... iii/高中所得国

出典) WDI (世界銀行) 等。詳細は解説参照

表-1 我が国の対エクアドル援助形態別実績 (年度別)

(単位: 億円)

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2009年度	-	12.35	9.08(8.61)
2010年度	-	3.62	6.82(6.55)
2011年度	-	9.93	4.78(4.54)
2012年度	-	3.78	5.82(5.54)
2013年度	-	1.92	6.98
<b>累計</b>	664.36	334.10	234.59(231.04)

※脚注参照

ミレニアム開発目標 (MDGs) 代表的な指標

	過去データ	最新データ
●目標1: 1日1.25ドル未満で生活する人々の割合	14.1%(1994)	4.6%(2010)
●目標2: 初等教育における純就学率	90.2%(1994)	98.6%(2009)
●目標3: 初等教育における男子生徒に対する女子生徒の比率 (男子を1とした時の女子の人数)	0.99人(1993)	1.00人(2011)
●目標4: 5歳未満児の死亡数 (1,000人あたり)	55.8人(1990)	23.3人(2012)
●目標5: 妊産婦の死亡数 (出生児10万人あたり)	180人(1990)	110人(2010)
●目標6: 15~49歳のHIV感染率 (100人あたりの年間新規感染者数の推定値)	-	-
●目標7: 改良飲料水源を継続して利用できる人口の割合	76.4%(1990)	91.8%(2011)

出典) Millennium Development Indicators (The Official United Nations Site for the MDG Indicators)

エクアドルに対する我が国ODA概要

1. 概要

エクアドルに対する我が国の経済協力は、1960年度の研修員受入れに始まり、1980年代に水産無償資金協力、1990年代以降に一般無償資金協力を拡大し、これまで主に水資源開発、道路整備、農業支援、職業訓練、教育、医療・保健、環境・防災の各分野で協力を行ってきている。その後、所得水準の上昇もあり、青年海外協力隊 (JOCV) 派遣を含む技術協力、草の根・人間の安全保障無償資金協力を中心に実施している。

2. 意義

エクアドルは中進国に属するものの、経済発展は石油産業など一部の分野に限られ、先住民族が多く居住する地方農村部では開発が遅れており、所得格差や地域間格差がまだまだ大きい。また、エネルギー(電力)不足などの課題や地震、火山噴火などの自然災害に脆弱であることも同国の発展を阻む要因となっている。同国に対する支援は、こうした開発課題の解決に寄与するとともに、二国間関係の深化の観点から有意義である。

3. 基本方針

格差是正と持続的発展を基本方針とする。我が国は、上記援助の意義や同国のニーズを踏まえ、「貧困削減と公平な社会に向けた格差是正」を開発援助の中核とし、同国の均衡のとれた自立的・持続的な発展の促進に貢献していく。

4. 重点分野

- (1) 格差是正: エクアドルでは石油関連産業以外に収益性の高い産業が少なく、所得格差や都市と地方との間の格差が大きいことから、地方農村部の農業競争力の向上を通じて、同国の潜在的な農業開発力を発揮させ、経済発展を牽引させるよう支援する。また、貧困層への職業訓練推進など社会的弱者への援助を通して、格差是正に向けたエクアドルの取組を支援する。
- (2) 環境保全・防災: ガラパゴス諸島、アンデス山脈、アマゾン河上流域の熱帯雨林の森林開発などは、国境を越えて広域的に自然環境に対して影響を及ぼすおそれがあることから、地球規模課題への取組という視点も考慮して、これら豊かな自然環境の保全に取り組む同国への支援にも努める。また、自然災害が増加傾向にある中、防災分野の支援にも努める。

※注) 1. 年度の区分および金額は原則、円借款および無償資金協力は交換公文ベース、技術協力は予算年度の経費実績ベースによる。

2. 2009年~2012年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2013年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示している。( )内はJICAが実施している技術協力の実績および累計となっている。

# エクアドル

表-2 我が国の年度別・形態別実績詳細 (表-1 の詳細)

(単位：億円)

年 度	円借款	無償資金協力	技術協力
2011 年度	なし	9.93 億円 ・新マカラ国際橋建設計画 (国債 3/4) (4.98) ・ノン・プロジェクト無償(1 件)(3.00) ・草の根・人間の安全保障無償(28 件) (1.95)	・実践的手法による訓練コースの開発と 運営管理プロジェクト [12.03~14.03] ・チンボラソ県持続的総合農村開発プロ ジェクト [12.03~17.03]
2012 年度	なし	3.78 億円 ・新マカラ国際橋建設計画 (国債 4/4) (1.63) ・草の根・人間の安全保障無償(27 件) (2.15)	
2013 年度	なし	1.92 億円 ・公共放送局番組ソフト整備計画 (0.37) ・草の根文化無償(2 件) (0.18) ・草の根・人間の安全保障無償(18 件) (1.38)	・カタラマ川流域灌漑事業活性化プロ ジェクト [13.06~16.06] ・津波を伴う地震のモニタリング能力向 上プロジェクト [14.03~17.03]
2013 年度 までの累計	664.36 億円	334.10 億円	234.59 億円(231.04 億円) 研修員受入 1,981 人 専門家派遣 418 人

注) 1. 表-1 注釈同様

2. 技術協力においては、2011 年度以降に開始され 2013 年 4 月の時点で継続中の技術協力プロジェクト案件のみを掲載している。案件の [ ] 内は、協力期間。

表-3 我が国の対エクアドル援助形態別実績 (OECD/DAC 報告基準)

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	有償資金協力	無償資金協力	技術協力	合計
2009年	-26.51	5.44	9.31	-11.76
2010年	-28.22	13.79	9.19	-5.23
2011年	-25.56	9.63	5.87	-10.06
2012年	-25.53	10.28	5.87	-9.37
2013年	-17.49	0.56	7.60	-9.34
累計	-18.54	284.02	208.35	473.85

出典) OECD/DAC

- 注) 1. 国際機関を通じた贈与については、2006年より、拠出時に供与先の国が明確であるものについては各被援助国への援助として「無償資金協力」へ計上することとしている。また、OECD/DAC事務局の指摘に基づき、2011年には無償資金協力を計上する国際機関を通じた贈与の範囲を拡大した。( )内は、国際機関を通じた贈与の実績(内数)。  
 2. 有償資金協力および無償資金協力は、これまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(有償資金協力については、エクアドル側の返済金額を差し引いた金額)。  
 3. 有償資金協力の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。  
 4. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁および地方自治体による技術協力を含む。

表-4 諸外国の対エクアドル経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位		2位		3位		4位		5位		うち日本	合計
2008年	スペイン	93.51	米国	52.11	ドイツ	41.45	ベルギー	18.69	日本	18.20	18.20	265.60
2009年	スペイン	65.48	米国	57.46	ドイツ	28.81	日本	14.75	ベルギー	13.52	14.75	216.08
2010年	スペイン	75.99	米国	37.63	ドイツ	29.56	日本	22.98	ベルギー	12.75	22.98	205.62
2011年	ドイツ	42.94	スペイン	42.73	米国	39.46	韓国	17.53	日本	15.50	15.50	196.99
2012年	ドイツ	38.05	米国	31.47	スペイン	24.33	韓国	24.07	日本	16.15	16.15	168.46

出典) OECD/DAC

表-5 国際機関の対エクアドル経済協力実績

(支出総額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位		2位		3位		4位		5位		その他	合計
2008年	EU Institutions	40.41	IDB Sp. Fund	8.67	GFATM	4.93	GEF	3.30	UNHCR	2.33	6.11	65.75
2009年	EU Institutions	62.63	GEF	8.67	IDB Sp. Fund	7.57	GFATM	6.01	UNHCR	2.43	4.73	92.04
2010年	EU Institutions	24.74	IDB Sp. Fund	14.52	GFATM	8.13	IFAD	2.07	UNHCR	1.84	4.69	55.99
2011年	EU Institutions	30.68	IDB Sp. Fund	10.60	GFATM	8.12	IFAD	3.51	UNHCR	2.40	4.59	59.90
2012年	EU Institutions	41.87	GEF	5.38	IDB Sp. Fund	4.60	GFATM	3.87	IFAD	2.96	3.93	62.61

出典) OECD/DAC

- 注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

表-6 2013年度実施協力準備調査案件

案 件 名	協力期間
チンボラソ県医療施設・機材整備計画準備調査	13. 2~13.12

出典) JICA

# エクアドル

表-7 2013年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案	件	名
アグア・クララ	橋梁建設	設計画
カルチ県3	橋梁建設	設計画
サンタ・ナルシサ・デ・ヘスス	診療所医療機材整備	計画
セビカム病院	医療機材整備	計画
カニャ・アマルガ	橋梁建設	設計画
グアインチェ	橋梁建設	設計画
グランデ	橋梁建設	設計画
グリーンゴ	橋梁建設	設計画
ブランコ	橋梁建設	設計画
サン・クリストバル・アルト	地区灌漑設備改善	計画
ベルデパンバ	橋梁建設	設計画
ポリバル県品質検査所	機材整備	計画
ラビハ	橋梁建設	設計画
アタワルパ市障害者リハビリテーションセンター	水治療法室及び車輛整備	計画
カタマヨ市	ゴミ処分施設機材整備	計画
パプロ・アルトゥロ・スアレス	総合病院医療機材整備	計画
バルボネス	自治区上水道改善	計画
ラ・イベリア	自治区下水処理設備建設	設計画

主なプロジェクト所在図

エクアドル、ガイアナ、コロンビア、スリナム、ベネズエラ



ガラパゴス諸島



〈プロジェクト所在地が複数にわたるもの〉

エクアドル

⑪実践的手法による訓練コースの開発と運営管理プロジェクト(11)  
(キトと複数地域 (詳細検討中))

コロンビア

⑪コミュニティ・先住民ラジオ放送局番組制作機材整備計画(11)  
(ラ・グアヒラ県、セサル県、ノルテ・デ・サンタンデル県、ナリーニョ県、プトウマジョ県)